

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます

報道関係各位

2012年2月



「タロット ～ウロボロスの環～」
〔制作〕マンガコース4年 守家 希

＜宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部に関する情報のお問合せ＞

宝塚大学 東京 新宿キャンパス 広報室

担当: 金澤、山本 TEL: 03-3367-3411

＜ご掲載・写真データ等に関するお問合せ＞

宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 広報事務局 共同 PR 株式会社

担当: ^{えがしら}江頭、^{たかはし}高橋 TEL: 03-3571-5228

編集者講評会を開催

毎年恒例となったマンガコース主催の「編集者講評会」が、1月末に学内で行われました。編集者講評会は、学生がプロのマンガ編集者から作品の講評を直接受けることができます。講評会の参加条件は、「完成原稿であること」、「ふきだしの文字が読みやすいこと」、「編集者に見られて恥ずかしくない水準の作品であること」などで、他コースの学生も参加することができます。



編集者からアドバイスをもらう学生

今年の講評会の講師役は、『週刊少年サンデー』（小学館）、『ジャンプスクエア』（集英社）、『モーニング』（講談社）、『花とゆめ』（白泉社）、『月刊少年ガンガン』（スクウェア・エニックス）の編集者の面々。

学生たちは自らの作品と、漫画賞の応募・受賞履歴、アシスタント希望の有無を書いた紙を持って、編集者の前に緊張の面持ちで並ぶと、数々のプロの漫画家の作品を手がけている編集者のアドバイスを熱心に聞いたり、積極的に自分の作品をアピールする姿も見られました。

竹内 一郎 教授（マンガコース）は、「編集者講評会」の狙いとして「学生のモチベーションアップ」を第一に挙げています。今回はマンガコースを中心に、2年生から4年生までの約40人が講評会に参加しました。毎年、この日のために作品を制作する者や、卒業制作として完成した作品を見せる者など、多くの学生が高い意識を持って講評会に臨んでいます。現在、プロの漫画家のアシスタントに就いている澁谷 奈津子さん（マンガコース卒業生：『週刊少年サンデー』主催の「第1回クラサン杯」でグランプリ受賞）を評価している編集者が出席したこともあり、漫画家デビューを目指す学生にとって刺激のある講評会となりました。



1.HOT TOPICS—②

『COMITIA99』+『コミティア XIII』に参加

マンガ・アニメーション・ゲーム・イラストレーション各コースの学生有志が、東京ビッグサイト（江東区有明）で2月5日に開催された『COMITIA99』+『コミティア XIII』に参加しました。学生たちは3月に開催する宝塚大学卒業制作展の告知と予行演習を兼ねた「プレ卒展」として、出展ブースで卒業制作作品の展示や自作漫画の販売などを行いました。

■コミティア（自主制作漫画誌即売会）

URL : <http://www.comitia.co.jp/>

出展サークル一覧『COMITIA99』

『笑顔と幸せの魔法』（イラスト）

『こいろいろこまる*』（イラスト）

『しろくろ箱』（マンガ）

『OM2R5』（マンガ）

『毬玉ぷらねった』（マンガ）

『珍工房』（マンガ）

『29°』（マンガ）

『鬼ヶ島』（マンガ）

『虫籠荘』（マンガ）

『太陽行き』（マンガ）

出展サークル一覧『コミティア XIII』

『戦場のスターゲイザー』（ゲーム）

『P e z』（アニメ）

『T - GAME プレ卒展①』（ゲーム）

『T - GAME プレ卒展②』（ゲーム）



出展ブースの様子

1.HOT TOPICS－③

告知

卒業制作展開催のお知らせ

今年の卒業制作展は、3月10日（土）、11日（日）の2日間にわたって、各コースとも学内で開催することになりました（下記ご参照）。

卒業制作展は大学生活の集大成です。昨年は、マンガ、アニメーション、ゲーム、イラストレーション、映画というコースの垣根を超えて卒業制作に取り組む学生たちも目立ちました。昨今では、ネット環境の普及やデジタル技術の発達により、作品の作り方や、制作する側と作品を見る側の関係が大きく変わりつつあります。卒業制作展では、こうした常に変化し続けるメディア・コンテンツ業界に対応した意欲的な作品を数多く展示いたします。ぜひ会場まで足をお運び下さい（入場無料）。

第2回 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部「卒業制作展」概要



日 時： 3月10日（土）10：00－20：00
3月11日（日）10：00－18：00

場 所： 宝塚大学東京新宿キャンパス
東京都新宿区7丁目11番1号

アクセス：

- ・新宿駅（JR線/小田急線/京王線/丸の内線）西口から徒歩約5分
- ・都営大江戸線新宿西口駅から徒歩約3分
- ・西武新宿線西武新宿駅 南口から徒歩約4分

- マンガコース
提出課題・オリジナル同人誌及び生原稿展示
- アニメーションコース
絵コンテや設定資料の展示、映像作品上映
- ゲームコース
iPhone・iPadアプリ、動画などの展示
- イラストレーションコース
イラストレーション及び立体作品の展示
- 映画コース
映像作品上映

※当日は学生の作品・グッズの販売も行います。

1.HOT TOPICS－④

「月刊少年ライバル」賞の佳作を受賞

コミック雑誌「月刊少年ライバル」（講談社刊）が主催するマンガ賞「第7回ライバルコミック大賞」で、マンガコース3年の岡崎 真澄さん（ペンネーム：崎岡 澄真）の作品『ハエ叩き部』が佳作及びマンガ家の森川 ジョージさんが選んだ「森川賞」を獲得しました。

「ライバルコミック大賞」は、8ヵ月に一度開催され、大賞には賞金300万円と本誌連載権、準大賞には賞金100万円と読み切り掲載権が贈られるマンガ賞で、“業界最高クラスの賞金額”と“連載への最短コース”が特徴です。7回目となる今回は、森川 ジョージさん（『はじめの一步』作者）、岸本 聖史さん（『ブレイザードライブ』作者）が審査を担当し、数百点の応募作品の中から厳しい選考を勝ち抜いた計23作品が受賞しました。

岡崎さんによる作品紹介

『ハエ叩き部』は、「ハエ叩き」を部活動にしてしまった高校生たちが主人公のギャグマンガです。「もしも『こんな部活は嫌だ』という大喜利のお題があったらどうなるか？」という趣旨の結局は“ハエを叩けば勝ち”という以外に一切含みを持たない、単純なストーリーに仕上げました。

編集部の選評

ギャグとは思えないスマートな絵柄で、「ハエ叩き」を部活にしてしまうというバカバカしさが新鮮で驚かされました。設定だけでなく、セリフのセンスも良く笑わせてくれました。絵でも、笑いがとれるようになると、なお良いです。（「月刊少年ライバル 2012年3月号」より抜粋）



受賞作『ハエ叩き部』のひとコマ

1.HOT TOPICS—⑤

学生作品集『NEO』を発刊

マンガコースの学生たちが企画・編集したオリジナルマンガ雑誌『NEO』の第3号が刊行されました。

『NEO』は、2010年2月に創刊したマンガ雑誌で、「自分たちの作品を、もっと外部に発信したい」、「学生たちの発信への意識を盛り上げ、キャンパスごとレベルアップしたい」をコンセプトに、企画・編集など全ての制作過程を学生が担当しています。創刊号、第2号がたいへん好評だったことや、学生たちが様々な視点からマンガに関わる経験を得られる機会になっていることもあり、今年も引き続いて第3号を刊行することになりました。

『NEO』は、オープンキャンパスや卒業制作展、コミティア（自主制作漫画誌即売会）などのイベントで大学のブースを出展した際に一般配布しており、大学発行のマンガ雑誌として注目を集めています。

第3号には、「週刊少年サンデー」（小学館）が運営するコミック WEB サイト「クラブサンデー」上で開催された「第2回クラサン杯」に出品した、杉本 沙祐理さん（マンガコース3年）の『歌うたいと鉄の鳥』など、学生たちの渾身の作品全10編が収録されています。



『NEO』第3号の表紙

1.HOT TOPICS—⑥

防災イベントで似顔絵描き

新宿区主催の防災イベント「しんじゆく耐震フォーラム2012」（会場：東京都健康プラザハイジア、新宿区立大久保公園）で、マンガ、イラストレーションコースの学生たちが似顔絵描きを行いました。

同耐震フォーラムは、『防災とボランティア週間』のイベントとして1月末に開催。学生による似顔絵描きのほか、無料耐震相談や被災地応援マーケットなどが実施されました。

本学はこれまでも東日本大震災復興支援の展覧会や、新宿区内のお祭りなど区内の様々なイベントに積極的に参加してきました。いずれのイベントでも来場者の好評を呼んでいることから、今回も新宿区からの要請を受け参加しました。



似顔絵を描く学生たち

似顔絵イベントは、ハイジアの1F フロアで行われ、子供からお年寄りまで多くの人たちが来場しました。学生たちは、相手の緊張をほぐそうとコミュニケーションを交わしながら、特徴をとらえるべく真剣な眼差しで観察し、丁寧に似顔絵を描いていました。

本学は昨年 9 月に就任した「歌舞伎町タウン・マネージメント (TMO) 広報大使」として、また新宿区内にある大学として、今後とも地域の様々なイベントに協力してまいります。



特徴をとらえようと、相手をじっくり観察する学生



1人が会話で緊張をほぐし、もう片方が似顔絵を描く連携プレーも見られました

1.HOT TOPICS—⑦

高田 講師が姉妹展を開催

イラストレーションコースの高田 美苗 講師と、アニメのキャラクターデザイナーやイラストレーター、ジュエリーデザイナーとして活躍している姉の高田明美さんによる姉妹展『Valentine's Gift Angel Mythos 5 高田明美・高田美苗二人展』が、プランタン銀座のアートスペース「ギャルリィ・ドウ・プランタン」で、2月13日まで1週間にわたって行なわれ、大盛況のうちに幕を閉じました。



姉の高田 明美さん（左）と、妹で本学講師の美苗さん（右）

今回で5回目となる姉妹展では、明美さんデザインのオリジナルアクセサリーのほか、明美さんがキャラクターデザインを担当した「魔法の天使 クリィミーマミ」を描いた作品や“妖精”をモチーフにした作品と、美苗さんの“掌に地球を載せたままライオンに跨る少女”を描いた幻想的な作品などのタブロー計35点が展示されました。会場には学生のほか、親子連れなど様々な世代の鑑賞者が訪れ、子供の頃に「クリィミーマミ」を見て育った親が、自分の子供にその絵の説明をしている場面も見られました。

美苗さんは、「初日に大学での教え子や教職員の方々に来場していただいて、とても嬉しかったです」と感想を述べました。また、「今後も、講師としてももちろんですが、作家として学生の手本になれるよう創作活動にも力を入れていきたい」と語りました。



作品をじっくり鑑賞する来場者たち



高田 美苗 講師の作品

2.各コース紹介

授業紹介

マンガ背景美術〔受講学年：マンガコース 3年（必修課目）担当教員：イエス小池 講師〕

「マンガ背景技術」は、背景美術の基礎である遠近法や、各種の効果処理のほか、キャラクターの心理描写を表す多様な特殊効果などの応用技術を学ぶ授業です。

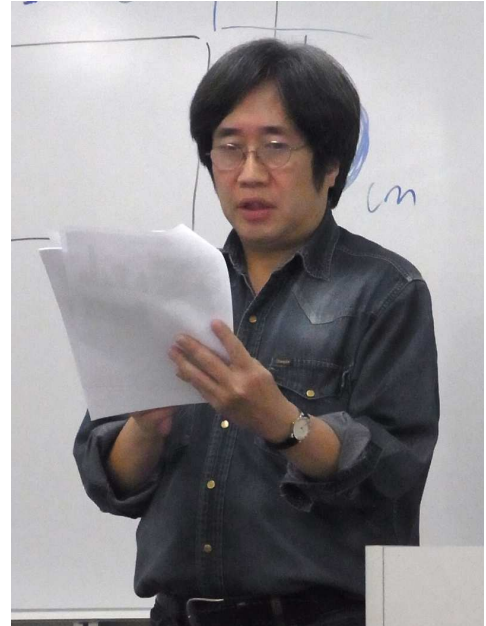
具体的には、「ホワイトの入れ方」や「ベタ塗りの効果的な使用法」、「スクリーントーンを用いた背景の描き方」、「3点透視図法による構造物の表現処理」などを学びます。

また授業では、これら背景美術に関する技術的な指導だけでなく、漫画家アシスタントの実務と現実など、イエス小池講師の体験談を基に、漫画界で生きるための「プロ意識」の育成も図っています。

「SF 漫画と時代劇の背景美術」について学ぶ回では、イエス小池講師が自分のスクラップ資料を参考に、背景を描くに当たって考慮すべき点について解説しました。SF 漫画の街並みを描く際には、「全てを SF 的な建物にするのではなく、その中に少しレトロなものを混在させると、より現実的な SF 感を演出できる」というテクニックを紹介。また SF 的な新しい建物や施設、乗り物などを創造するには、常日頃からそのようなイメージを想起できるよう、最先端のデザインに関するストックが重要であることを強調しました。

時代劇での背景技術については、「武家・農家・町民など身分によって家や服装、髪型などが異なる。その時代の風俗に対する資料を読み、理解していないと、正しく描き分けることができない。それらの要素を事前にしっかりと押さえておくことが重要」と、基礎資料の収集が作品のクオリティーに影響することを説明しました。

最後にイエス小池 講師は、背景技術の向上を目指し受講している学生に対して、「マンガを読む時、“ああ面白かった”で済ますのではなく、その作品の中で“うまいな”“いい構図だな”など、自分の感性に訴えかけてくる背景や小道具などの画があった場合、それを必ずスクラップしておくことが大切。自分で作品を描く際に必ず役立つ」と、自分の感性のフィルターを通過した画を、資料として手元に残しておくことを強く勧めていました。



授業を行うイエス小池 講師



学生の作品にアドバイスを送るイエス小池 講師

3.教員紹介

アニメーションコース 平野 靖士 講師

書くことは恥をさらすこと

学生には、「電車の中で携帯電話をいじるな。人を観察しろ」と言っています。物語やドラマには人間の心の葛藤が必ず描かれています。シナリオを書く上で、人を観察することは基本となります。また、シナリオを読むということは行間を読むことです。行間が読めなければ、細かな表現や、主人公の心情の変化などをうまく表現することはできません。商売にするかは別として、本を書けるくらいでないと、キャラクターなどの絵は描けてもアニメーションの演出の仕事は難しいと思います。



平野 靖士 講師

物語作法の授業では、神話や童話などに描かれた物語から構成やドラマを学習しますが、ドラマという単語はギリシャ語「drâma」で戯曲という意味があり、脚本やシナリオに近いものです。頭の中でゼロから物語を作る力をつけさせるために、たとえば三題噺（さんだいばなし）のように、あまり関係のないお題を3つ挙げて、それら全てを内容に盛り込んだ話を作ったり、「高校を卒業して大学1年になった19歳の主人公」という設定だけを決めて、自由に短いストーリーを考えてもらったりということをしています。

主人公が人間であれ動物であれ、心には葛藤があり、そこには何らかの敵が存在し、物語が展開します。学生に「何でもいいので敵を挙げてみる」というと、今でもゴキブリと答える学生が多かったりしますが、例えば敵は津波と答えてもいい。一概には言えませんが、昔に比べると今の学生は社会に対する興味や関心が低いと感じる時があります。本や新聞を読んで、社会的な関心を高めることも必要です。

シナリオは、常に手書きで書いてもらうようにしています。手書きだと筆使いや文字に気持ちが表れます。「文字に勢いがある」ということは気持ちが乗っているということで、面白い話が多いのです。また、話のテンポが良い人は書くことも得意です。話をするのも書くのも、リズムが大切だという共通項があると思います。

学生には、書くことでもっと自分の内面をさらけ出して欲しい。書くことは恥をさらすことです。怒られることに慣れていない学生は、作品にダメ出しをされ、怒られる経験がもっと必要です。そういった体験を経て、打たれ強くなっていくのだと思います。

<平野 靖士 講師 プロフィール>

【略歴】 横浜放送映画専門学校（現日本映画学校）卒業。

脚本家・シナリオ作家として数々の映画、アニメ、ドラマ、特撮作品を手がける。

【担当授業科目】 物語作法／シナリオ・コミック原作

4.学生紹介

浅子 かおり さん（イラストレーションコース 4年）

将来は新商品のデザインを手がけたい

卒業制作展の準備に追われていて、卒業するという実感はまだありませんでした。この前、卒業式で着る袴を見に行ったことで実感が少し湧いてきました。卒業制作展では、今まで制作したオリジナルキャラクターやキャラクターグッズの集大成となる展示を予定しています。

就職活動は3年生の後期から取り組みました。学内の就職活動のセミナーで、ポートフォリオ（面接の際などに見せる作品集）の重要性に気づいてから特に意識が変わったと思います。当初からデザイン職を募集している企業を探していましたが、実務経験が最低でも2年から3年ないと応募すらできない企業が多く、とても苦労しました。希望する企業がなかなか見つからない状況の中、就職室のアドバイスで地元のハローワークを利用し、企画・デザイン職を募集している地元の企業を見つけました。



企画・デザイナー職での就職が決まっている浅子さん

内定をいただいた会社は、大手デパートの食品売り場などで「おこわ」を中心とした、お弁当、寿司、おむすび等をブランド展開して販売する企業です。私は希望していた企画・デザイナー職で採用されることになりました。面接に進む前に、まず企画書を作成したのですが、与えられたテーマを基に、私なりに若者やOLを顧客ターゲットと定め、ターゲットが興味を惹くようなお弁当の包装紙のデザインや、マスコットキャラクターを考案して企画に落とし込みました。面接では、ポートフォリオを中心とした自己PRと、また私自身について自分の言葉で説明することを求められました。

実際にすぐにデザインの仕事に関われるわけではありませんが、将来はチラシや商品の包装紙のデザインを担当してみたいです。そして、自分で一から新商品のお弁当箱のデザインを企画して、包装紙のデザインを含め、女性にかわいいと思ってもらえるようなお弁当のブランドデザインを手がけたいです。

大学時代は、イラストレーションコースの作品集を本としてまとめる作業や、小田急百貨店で開催したイベントのポスター作成など、授業以外での経験も勉強になりました。社会人の方と会議で話したり、締め切りをきちんと守ったりすることは、就職活動にも通じます。就職活動を終えて感じることは、やはり実務経験がないと企業に応募できなかった悔しさです。実務経験はバイトでも構わない会社もあるので、大変だと思いますが、デザインや絵を描くアルバイトをしておけば良いと思います。また自分で作った作品は、自信を持って人に説明すること。どんな作品でも多くの人に見てもらい、自分の言葉で話すことが大事だと思います。

<浅子 かおりさん プロフィール>

埼玉県川口市生まれ。浦和学院高等学校出身。2012年4月、山和食品株式会社（事業内容：百貨店・駅ビルでのおこわ、お弁当、寿司等の製造・販売。外食事業の運営。）に企画・デザイナー職として入社予定。

5.今後の予定

<作品展>

■ 北見 隆 個展「青い鳥号の冒険」

期 間：2月11日（土）～3月4日（日） ※月曜休廊
会 場：art gallery デボラ（大分県大分市南津留）
内 容：イラストレーションコース 北見 隆教授による
個展です。



■ 「モノクロームの表現者たち」展

期 間：2月13日（月）～2月25日（土） ※日曜休廊
会 場：ギャラリー オル・テール（東京都中央区京橋）
内 容：イラストレーションコースからは高田 美苗講師
が出品します。



■ 「幻の猫」展

期 間：2月17日（金）～2月28日（水） ※水曜休廊
会 場：画廊 珈琲 Zaroff（東京都渋谷区初台）
内 容：タブロー、ドローイング、日本画、書、銅版画、
オブジェ、フォトコラージュ、音楽などによる、
幻の猫の首に鈴を付ける方法についての考察、そ
の小品展。イラストレーションコースからは高田
美苗 講師が出品します。



■ 「宇野亜喜良の自由の女神にイタズラ描き vol. 2」

期 間：2月23日（木）～3月3日（土） ※日曜休廊
会 場：SPACE YUI（東京都港区南青山）
内 容：宇野 亜喜良 氏の制作した、ドラクロワの「民衆を
導く自由の女神」から引用されたシルクスクリー
ン版画作品と、24名の作家がコラボレーションした作
品を展示。イラストレーションコースからは北見 隆
教授、城芽 ハヤト 講師が出品します。



5.今後の予定

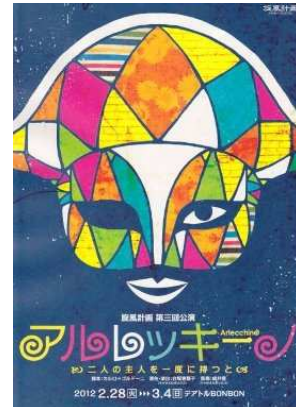
■ 旋風計画 第三回公演

『アルレッキーノ』 ～二人の主人を一度に持つと～

期 間：2月28日（火）～3月4日（日）

会 場：テアトル BONBON（東京都中野区中野）

内 容：コンメディア・デッラルテ（仮面を使った即興喜劇）の傑作『二人の主人を一度に持つと』に、宝塚大学 宝塚キャンパスの卒業生（2009年）・磯谷 小夜子さんが主演を演じます。



■ 「colorful ～十人十色の個性～」

期 間：2月29日（水）～3月5日（月）

会 場：ギャラリー原宿（東京都渋谷区神宮前）

内 容：「colorful」をテーマにした、本学の学生8人を含む、10名によるグループ展です。



■ 「それぞれの創造の軌跡—素描と小品の世界—」展 —東日本大震災後1年のチャリティー展—

期 間：3月2日（金）、3日（土）、9日（金）、10日（日）、
16日（金）、17日（土）、23日（金）、24日（土）

会 場：ギャラリー オル・テール（東京都中央区京橋）

内 容：イラストレーションコースからは高田 美苗 講師
が出品します。



■ 第2回 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部「卒業制作展」

期 間：3月10日（土）、11日（日）

会 場：宝塚大学 東京新宿キャンパス（東京都新宿区西新宿）

内 容：東京メディア・コンテンツ学部2期生による卒業制作展を開催。マンガ・ゲーム・イラストレーションコースの作品展示、アニメーション・映画コースの作品上映会を行います。

